

とある右席の無駄会議

神の右席の番外個体

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

神の右席のメンバーの無駄でおバカな会議の様子をお送りします 神の右席4人＋
αの愉快な？日常をお楽しみ下さいねーbyテツラ

(神の右席以外は基本ゲスト扱いです)

目次

議題その1	神の右席の進まない会議	
1		
議題その2	女狐襲来	4
議題その3	フィアンマの中の人は？前	
編		8
議題その4	フィアンマの中の人は？後	
編		11
議題その5	節約 節約 給料を節約ウ	
!		14
議題その6	木原くん登場の巻	18
議題その7	考案！右席グッズ	21
議題その8	キャラソンだしたい神の右	
		46
議題その9	神の右席は和食が大好き？	25
議題その10	右席 vs 18禁お姉さん	28
議題その11	桃太郎が知りたい右席	32
議題その12	ルチア先生の桃太郎講座	36
議題その13	第三王女の恐怖の役決め	39
番外編	フィアンマの声が決まった日	42

議題その1 神の右席の進まない会議

左方のテツラ「これより第1回神の右席定例会議を行いますねー」

前方のヴェント「…」

後方のアツクア「…」

右方のファイアンマ「…」

テツラ「今回の議題はですねー」

ヴェント「オイ、1つ聞いていいか、テツラ」

テツラ「ええ構いませんよ ヴェント どうしましたか？」

ヴェント「普通、会議ってリーダーが仕切るもんだよな？」

テツラ「そうですねー」

アツクア「…」

ヴェント「神の右席のリーダーってその赤いのだよな？」

テツラ「…そうですねー」

ヴェント「もう一つ質問いいか？テツラ」

テツラ「…」

ヴェント「どうして、この会議の議長をテメエがしてやる？」

テツラ「…貴方のような勘のいいガキは嫌いですよ…」

ヴェント「タ○カーか、テメエは！んなことよりきちんと説明しやがれ」

アックア（その下りにしたのはヴェントだと思うのであるが…）

テツラ「おっとここで私が責められるのは心外です」

ヴェント「本編のセリフ言っても誤魔化されねえからな？」

テツラ「では真面目に説明しますかねー この答えはともシンプルでしてね 私が議長になってる理由は…」

（テツラのいた場所爆破）

前後右「テツラが死んだ！この人でなし！」

テツラ「さて、本編ネタも回収した所で言いますかねー 後、私はどこぞの青い槍兵

じゃありませんからねー」

アックア（何事もなかったように起き上がつのである…）

ヴェント「つたく つまんねえ茶番しやがって、で、結局なんでなんだよ」

テツラ「それはですねー 私が作者のお気に入りだからですよー」

ヴェント「ふつぎけんじやねエぞ！そんだけでリーダーなれんのかよ！ああ？テメエら2人もなんとか言えや！」

アックア「む、私はテツラから東洋の島国の演芸番組でも司会は緑色の者だからこれが普通なんですよーと言われたのだが」

フィアンマ「俺様もそう言われた」

ヴェント「それ、笑○だよな？なんで○点なんだよ！確かに司会は緑の服着てるけど！」

フィアンマ「その方式だと俺様が山○君でアックアが小○三、ヴェントが木久○か…」

ヴェント「誰が黄色い面白親父だ、コラ 後フィアンマお前無駄に詳しいな」

フィアンマ「毎週日曜の楽しみだからな」

ヴェント「日本人か、テメエは」

テツラ「まあそういうことで納得してただけませんかねー」

ヴェント「納得できるかアアア！よし、元凶（作者）殺してくる」

テツラ「ちよつとそれはまずいですよ 1話から打ち切りになってしまいますー」

ヴェント「知るかアアア！」

アックア（セリフほとんどなかったである）

アニエーゼ「で会議は進まなかったと… この職場やめよかな…」

議題その2 女狐襲来

左方のテツラ「それでは第2回神の右席定例会議を行いますねー 今回の議題は神の右席に足りないものについてですねー」

前方のヴェント「…」

後方のアツクア「…」

右方のフィアンマ「…」

テツラ「それはですねー、円○枠がないことで…」

ヴェント「また○点かアアアア！笑○はもういいつつてんだろオ！いい加減まともな話し合いしろオオオ！」

テツラ「気に入りませんか？」

ヴェント「だ・か・ら！本編のセリフで誤魔化するやめろ！ー回目なんもできてねえんだから会議進めなさいよ！」

テツラ「それもそうですねーでは真面目に進めますかねーでは今回の議題はこちら」

神の右席新メンバー募集

ヴェント「ハア？全席埋まつてるのに新メンバーなんか募集してどうすんのよ？」

アツクア「確かにそうである どういうことであるか？テツラ」

テツラ「話は簡単ですよ 私たちには前後左右はいますが 中央がいません ですからそこに新メンバーを入れようかと そこで今からオーディションをしようと思ったわけですよ」

フィアンマ「中央か：俺様たちは審査すればいいのかわ？」

テツラ「ええそうですよ 話が早くて助かります ではエントリーナンバー番の方どうぞー」

???'「エントリーナンバー番 お茶目な金髪美少女 ローラ・スチュユ」

ヴェント「オイゴラア！初っ端から呼んじやダメなやつ呼んでんじやねーか！」

ローラ「え、私では役不足だと言いたりけるのかしら？その前方のバナナさん♪」

ヴェント「誰がバナナじやあワレエ！ぶ・ち・こ・ろ・し・か・く・て・い・ね？」

フィアンマ「待て待てそりやあ学園都市第4位のババアのセリフだろ？」

ヴェント「知らねえなあ！死に去らせ、最大主教の女狐がアアア！」

ローラ「まあ怖い よよよ」

アツクア（ヴェント羽交い締め） 落ち着くのである ヴェント しかし、ローマ正教の暗部組織にイギリス清教のトップがいるのもおかしな話である 説明をくれない

か テツラ」

テツラ「そうですねー、彼女が選ばれた理由はですねー、神の右席には女性成分が足りないから華やかな金髪美少女を入れようてことらしいです」

ヴェント「ちよつと待ちなさいよ、ここに立派な成人女性がいるんですけど」

ローラ「あーら、あなたのような凶暴そうな方は女性とは言わざることよ」

ヴェント「あ？なんだこの狐女が」

ローラ「まあ落ち着きたることよ そんな武器を突きつけられちゃあビビって話すこともできざるわ」

ヴェント「それが辞世の句でいいわよね？狐女」

ローラ「文句があるのならかかってきたりけることよ、OK?」

ヴェント「OK！（ズドン）」

ヴェント・ローラ「第三次世界大戦じゃあ！」

フィアンマ「誰だよ あんなやつ呼んだの 俺様はこの後どうなっても知らんぞ」

テツラ「収集つかなくなってきましたねー」

フィアンマ「お前も責任あるからな？」

テツラ「おっと私が責めら…」

ヴェント「そのネタは前回もやったよな？（威圧）」

テツラ「そ、そうですねー、後始末どうしましょうかねー（遠い目）」
ルチア「会議がドンパチ戦争になってますね： 頭痛くなってきました 帰ってもいいでしょうか？」

議題その3 フィアンマの中の人は?前編

左方のテツラ「それでは第3回神の右席定例会議を行いますねー 今回の議題は前回と変わってですねー」

前方のヴェント「…」

後方のアツクア「…」

右方のフィアンマ「…」

テツラ「あれ、みなさんどうかしましたか?」

ヴェント「おい、テツラ 前のメンバー増やすとかいうのはどうしたのよ?」

テツラ「ああ あれですか、今回の議題と比べたら優先順位が低かったので後回しにしたんですよ」

アツクア「なるほど」ということは今回の議題は大真面目なものなのであるな、学園都市絡みであるか?」

テツラ「いや、今回は学園都市は関係ありませんよー 今回の議題は私達神の右席のメンバーについてのことなのです」

ヴェント「あたしらのこと? どういうことなのよ テツラ」

テツラ「簡単なことです 私達4人の中で1人だけがいますよねー」

ヴェント「発声だと？みんな喋ってるじゃねえか？ あつ そういうことか」

アックア「？私にも分かるように説明してくれないか テツラ」

テツラ「そのまま言ってしまうとですねー まだアニメに出演できていないフィアンマだけがまだ声帯の妖精がいないのですよ」

アックア「なるほど 理解した」

ヴェント「なんか静かだなと思ったらそれで今日喋ってねえのか フィアンマ」

フィアンマ「いや、ただ面倒だから話してなかっただけだ」

ヴェント「関係ないのかよ」

テツラ「というわけで今回の議題はこちら」

右方のフィアンマcv予想

テツラ「さて、誰がいいですかねー」

ヴェント「そうだな、他のメンバーの私達が物揃いだから有名どころがくるだろうな」

アックア「ヴェントが某カエル軍曹の居候先の母、テツラが某765社長 私が某パ
ン屋のアフロ店長、確かにそうである」

ヴェント「どんなチョイスしてんだよ 今の中高生テツラぐらいしかぱつとキャラ出てこないだろ!」

フィアンマ「いや、テツラもあんまり変わらんぞ」

テツラ「んーまあ顔ありませんからねー」

フィアンマ「まあ順当に考えるなら、k a m i y aさんとかになるのか?」

アックア「何?!? キン肉マンやケンシロウでおなじみのあの人がやるのか! 凄いの
ある! 羨ましいな」

ヴェント「そつちじゃねえよ k a m i y a 違いだよ ベテランすぎるわ!」

テツラ「んーここは思い切つてアナゴさんの人とかどうです?」

フィアンマ「それいいかもな、凄いラスボス感あるな! 俺様にピツタリだ」

ヴェント「ちよつと待ちなさいよ、確かにラスボス感はあるけど それでもいいの
というかもういるだろうが、その声の人」

テツラ フィアンマ アックア「えっ」

某監獄内

ピアージオ「ぶああくしよいいいい、だあれかがあ噂してるみたいだなああ」

アンジェレネ「会議の途中ですが、続きは後半に続きます!」

議題その4　ファイアンマの中の人は？後編

テツラ「さて、第4回神の右席定例会議をはじめますよー　今回は前回の続きからはじめますよー　地球温暖化と少子化について…」

ヴェント「オイ、コラ　んな真面目な話してなかっただろうが　確かその赤いの声帯の話だろ？」

アックア「それを予想している途中であったな」

ファイアンマ「前は若本ボイスがもういるからダメだつてとここで終わったな」

テツラ「そうですねー　では、バンバン予想してみましよう」

ヴェント「妥当にいくなら若めの奴らになるんじゃないやねーの？オルガの声とかDS王子の声とか」

テツラ「ヴェントのくせに普通ですねー」

アックア「確かに　ヴェントのくせに当たり障りのない人選であるな」

ファイアンマ「俺様も思った　らしくねえぞヴェント」

ヴェント「テメエら喧嘩売ってんなら買うぞ、コラ」

ファイアンマ「鼻毛神拳の声とか、某青目白龍大好き社長ボイスとか結構よくないか？」

ヴェント「ゲツ どっちにしろ うるせえじゃねえか 勘弁してくれよ」

フィアンマ「俺様にはあつてると思うんだけどな」

テツラ「どっちも俺様系ですからねー アックアは意見ありますか?」

アックア「玄田ボイスとかどうであるか?」

フィアンマ「とんでもねえ (その声を) 待つてたんだ」

ヴェント「なんでだよ、それだとお前クックだぞ」

フィアンマ「やつてみるか、俺だつて元コマンドーだ」

ヴェント「ああそれなら玄田ボイスね…じゃねえよ 根本的などこ変わってないわよ

てかフィアンマ テメエ ノリノリだな」

テツラ「フィアンマはコマンドーとかプレデターとか大好きですからねー」

フィアンマ「シユワルツネツガーの映画は素晴らしいからな」

アックア「その意見には賛同するのである フィアンマ」

フィアンマ「そうか、アックアも組合員だったか、この後時間あるか」

アックア「もちろんである」

フィアンマ「よし、これから鑑賞会だ」

ヴェント「オイ、話が脱線してんぞ どうにかしろよ テツラ」

テツラ「私を覚えているかね？ファイアンマ」

ヴェント「テメエもそっち側かあああ！テツラア！議長が脱線煽ってどうすんだ！」

テツラ「おかしいですね 身体が勝手に…」

ヴェント「そうか、そうか テメエらがその気ならこつちにも考えがある」

テツラ「ファイアンマ アックア」どういふことだ（ですか）（あるか）？」

ヴェント（デエエエエエエ）（最終決戦時のメイトリックスの格好）

テツラ「ファイアンマ アックア」……何が始まるんです？（震え）」

ヴェント「第三次大戦よ（ニヤリ）」

オリアナ「なんか教皇庁が半壊したらしいわよ て えっお姉さんの出番これだけ？

冗談よね？」

議題その5 節約 節約 給料を節約ウ!

テツラ「第5回 神の右席定例会議をはじめますねー 今回の議題はこちら」

神の右席メンバーの給料の再設定

ヴェント「どういふことなのよ テツラ」

テツラ「えつとですわー、私達 神の右席のお給料は善良な教徒達からのお布施ですよねー」

ヴェント「生々しい言い方だけど まあそうだな」

テツラ「それでですねー、無駄遣いは許しがたいぞ!という事ですね、使い道を明確にしてもらおうつてことなんですよー」

ヴェント「なんでそんなこと言わなきゃいけないのよ 却下よ 却下!」

フィアンマ「まあ 落ち着け ヴェント、確かにテツラの言い分も分からんでもない それぐらい言つてもかまわんだろ」

アツクア「今ここには我らしかいない だからヴェントの口からどんなことが出てきても私は誰にも口外しないのである」

ヴェント「オイ、私が如何にも怪しい買い物してるみたいな風潮にするのやめろ な

んもないからな！」

テツラ「では、アツクアから言ってもらいましょかねー」

アツクア「私は 食費とスポーツジム代ぐらいであるな」

フィアンマ「お前、なんのひねりもねえな」

ヴェント「まあでも無駄遣いはなさそうね 予想通りではあるけど」

テツラ「アツクアは特に問題なしですかねー では次 ヴェント」

ヴェント「チツ 私はアレだよ 化粧品とかくらいしかないわよ」

テツラ「あれ、おかしいですねー こちらの資料によると結構な値段なんですがね、これはどういうことですか？ヴェント」

ヴェント「ちよつと待て、資料つてなんだ アツクアん時はそんなこと一言も言つてなかったじゃないのよ！」

テツラ「だっていう必要ありませんでしたからねー」

フィアンマ「ははは、観念しろよ ヴェント 吐いちまいなよ 楽になるぜえ？」

ヴェント「NO. 66は帰れ！そして氏ね 化粧品つても術式を使うのに必要だから仕方ないのよ……」

テツラ「ピアスの数減らすなりすればなんとかなりますかねー それではフィアンマいきますかねー」

フィアンマ「俺様はやましいもんなんか何一つないぜ！アニメのグッズに消えてるだけだ はははっ」

ヴェント「テメーが一番無駄遣いしてんじゃねえか！そんなもん全部カットだカット」

テツラ「……それに加えてリンゴのカードにピー万円消えてるんですが……」

フィアンマ「ああそれは f g Oでイリヤ召喚にかかった値段だな」

ヴェント「え、バカなの？死ぬの？なんで血税でスマホゲーに課金してんだ コラ もうこいつの給料無しでいいんじゃないか？」

テツラ「まあ流石に給料無しはありませんが課金は監視の下して下さいねー 流石に無駄遣いはが過ぎると禁止ですよー」

フィアンマ「なん……だと……（呆然）」

ヴェント「ざまあ」

テツラ「では、終わりますかねー 解さ……」

アツクア「ちよつと待つのである テツラ、そちらの使い道を聞いていないのだが」

テツラ「くっ 流石に撒けませんでしたか……」

ヴェント「でお前はどうかんだよ？テツラ（資料とりながら）やっぱり酒代が高いな」

テツラ「いや、それはですね、術式に必要な経費ですね」

ヴェント「でもこんなに高い酒いらないわよね 節約しようか（にっこり）」

テツラ「アツハイ」

フィアンマ「（気絶）」

リドヴィア「伏せ字が伏せ字になってないような…？」

議題その6 木原くん登場の巻

テツラ「第6回神の右席定例会議ははじめますよー 今回の議題はこちら！」

第2回神の右席新メンバーオーディション

ヴェント「ああ前やったやつか、まだ続いているのね あの話…、とりあえず あの女

狐は来たら殺す」

テツラ「今回は別人なので落ち着いてくださいねー」

アツクア「前は2人が暴れて大変だったのである」*第2話参照

フィアンマ「(気絶)」

ヴェント「まだ気絶してんのかよ そいつ(殴)」

フィアンマ「はっ俺様は一体何を…」

ヴェント「寝てたのよ」

フィアンマ「え、でも…」

ヴェント「ね・て・た・の・よ!OK?」

フィアンマ「OK!(ズドン)」

ヴェント「(躲し)で、今回は誰なのよ」

テツラ「今回はこの方ですよー ではどうぞー」

???「チツめんどくせーな、学園都市狩猟部隊（ドッグハウンド）リーダーの木原数多だ よろしく」

ヴェント「あつ！テメーは私が学園都市行った時にいた科学の犬！」

木原「んあ？俺 お前さんとなんかあったかね…」

ヴェント「一回 話しただろうよ まあ少し話したただだから忘れちまつてる可能性もあるけど………で、野原さんだっけ？」

木原「あれ？ちゃんと聞こえてなかったのかな？お嬢ちゃん？俺は木原だ、木原」

フィアンマ「で、お前の実力はどんなもんなんだ、野原さんとか言ったか？」

木原「あのな！人の名前はちゃんと聞けよ？き・は・ら だ！」

アックア「2人とも失礼である で野原…」

木原「木原だつってんだらうが！おい、その緑のおっさん、おっさんからも言うてくれ」

テツラ「下の名前はひろしだったたりします？」

木原「テメーもか！俺は嵐を呼ぶ5歳児の父親じやないの！なんだローマ正教の暗部にはロクなのがないのか？」

テツラ「なぜか野原になつちゃうんですよねー なんでなんですかねー」

アツクア「んー 分からん」

ヴェント「あつ 声を聞くからよ！声が如何にも野原って声してるわよ」

木原「どんな声してんだよ…で、俺は別に神の右席とやらに入りに来たわけじゃねーぞ」

ヴェント「じゃあ なんで来たのよ…」

木原「ちよつと雲隠れさせてくれや その分仕事はすつからよ あのクソガキぶつ殺さねえと気がすまねえんだよ」

テツラ「なるほど では一時滞在ということでもいいですかねー 野原さん」

木原改め野原ひろし「野原じゃねえつってんだろ（ビキビキ）

オイ、俺の名前野原ひろしになってんぞ！違うからな！」

オルソラ「あの方の声を聞いているとすごい父親を思い出すのでございますよ あ、それと申し遅れました 私オルソラアクイナスと申します あれ、でも次回私出番ないのでですか？」

議題その7 考案！右席グズ

テツラ「第7回神の右席定例会議をはじめますよー 今回の議題はこちら」

3期での神の右席のグズズ展開について

ヴェント「今回はえらいメタい話になってんのね」

アックア「まったくである」

フィアンマ「詳しい話を聞かせろ テツラ」

テツラ「それはですねー 2期の時はヴェントしか確な出番が無くてですねー 私達

神の右席のグズズは皆無に等しいかったですよー」

フィアンマ「あー確かになんもなかったな」

ヴェント「え、でもあんたら出番なかったんだから仕方なくない？アックアは助けに

来ただけだし、テツラは電話の声だけ、フィアンマに至っては名前だけだったじゃない」

テツラ「その通りです ただ3期なら我々にもきちんとした出番があるので何かしら

は発売してくれるのではないかと」

アックア「なるほど しかし、メインのキャラでもないのにそううまくいくとは思え

ないのだが？」

フィアンマ「そうだな、俺様達はあくまで敵キャラだからなー」

テツラ「そこでですねー 我々でこんなグッズなら売れるというものを考案してみようと思っただけですねー」

ヴェント「まあ順当にいけばストラップとかかしらねー 運が良ければ他にもできるかもね」

フィアンマ「ならこんなのはどうだ 俺様の抱き枕 俺様のピローCD 俺様のブロマイドさらにさらに」

ヴェント「…」

テツラ「…」

アツクア「…」

フィアンマ「どうした お前ら感動のあまり声もでないか、当然だな」

ヴェント「バカか テメエ 呆れて声も出ねえんだよ!ンなもん売れるかボケエ!誰が買っただよ!需要ねえよ需要」

フィアンマ「チツ アバズレが…」

ヴェント「誰がアバズレだ 殺すわよ」

テツラ「まあまあ アツクアは何かありませんか?」

アツクア「筋トレ道具とかはどうであるか?」

ヴェント「それ、アニメグッズじゃねえだろうが！間違はなくお前が貰ったら嬉しいもんだろ、それにテツラ、お前は何かあるの？」

テツラ「そうですねー、ここはムサイ男の私達じゃ売れないと思うので女であるヴェントに頑張つて貰おうと思ひまして…」

ヴェント「げっ 嫌な予感しかないんだが」

テツラ「ヴェントの写真集とか歌のCDとかをですねー」

フィアンマ「やめとけそんなバナナ女のグッズなんてよ、それなのより俺様のグッズをだな」

ヴェント「…表に出ろよ 久々にキレちまったぜ」

フィアンマ「来いよ バナナ 術式なんか捨ててかかってこい」

ヴェント「野郎ぶっ殺してやああある！」

テツラ「どう思いますか？アックア いい案だと思うんですがねー」

アックア「確かに我々男よりも人気は出そうな気はするのである」

ヴェント「地獄に落ちろ フィアンマ」

テツラ「あれ？おかしいですねー それはヴェントがフィアンマに言われるべきセリフでは？」

ヴェント「な事言われても私が勝ったんだから仕方ないじゃない」

テツラ「そんなバカな… あれ本当ですね フィアンマが伸びてます」
フィアンマ（気絶）

ヴェント「後、テツラ私オンリーの奴は恥ずかしいから却下だからな」
テツラ「やっぱりダメですか…」

ヴェント「全員で絡めりやいいんなら歌でも出しやいいんじゃない？」

テツラ「それいいですね！」

アツクア「確かに名案である」

こうして神の右席キャラクターソング計画が開始された

続く

シエリー「あいつら何下らねえ事話してんだよ…私はもう寝るぜ…」

議題その8 キャラソンだしたい神の右席

テツラ「それでは第8回神の右席定例会議をはじめますよー 今回の議題は前回決まったこちらですよー」

神の右席の歌について

ヴェント「そういや、前回キャラソンだすかみたいな話になってたわね」

アックア「歌であるか…?」

テツラ「そうですねー 前回の最後で話にあがったキャラソンをだすとしてどんな感じにするかを話し合おうと思いましたが」

ヴェント「まあ一口に歌つってもいろいろあるからそこから話さないと、だめじゃない?」

アックア「歌か…森のクマさんとかぞうさんとかであるか?」

ヴェント「なんで全部童謡なんだよ! お遊戯会じゃねえんだぞ!」

アックア「むう」

テツラ「私的なことを言いますと演歌とかいいと思うんですよ 雪○とか○よとか」

ヴェント「お前はお前でなんで全部吉幾三なんだよ! 訳わかんねえだろ!」

フィアンマ「しかし、4人で歌うならパート分けとかキチンとしないとダメだな」

テツラ「喋らないと思っただら考え込んでいたんですか？フィアンマ」

フィアンマ「俺様はキャラソンにはうるさい方だからな 徹底的に拘らせて貰うぜ」

ヴェント「ゲツ そういや コイツ重度のオタクだったな…」*前回、前々回参照

フィアンマ「ただ俺たちは男ばかりの集まりだからな あながちテツラの言ってることもあながち間違いじゃない」

ヴェント「おい、赤、私は女だぞ！」

フィアンマ「うるせーな、ほぼ男ってのは間違ってるねーだろう」

ヴェント「チツ」

テツラ「吉幾三のどれかのカバーで行きますか？私的にはワークマンのやつなんかですね…」

ヴェント「なんでカバーなんだよ！せめて全員で歌えるようなの選びなさいよ」

テツラ「ドリフみたいな感じですかねー それならやりやすいかもしれないねー」

アツクア「ああそれなら私も分かるのである？」

ヴェント「あれ？ドリフってコントグループじゃねえのか？」

テツラ「元々ドリフはバンドなので歌も結構だしてますねー 軍歌の替え歌が多めです」

フィアンマ「ズンドコ節とか　ほんとにほんとにご苦労さんとかが有名だな」
ヴェント「そうなのかー　あーそれなら納得だわ」

アツクア「これならいけそうであるな」

フィアンマ「しかし、この中で一番歌が上手いのは誰なんだ？」

ヴェント「…」

テツラ「…」

アツクア「…」

フィアンマ「…」

ヴェント「オイ、なんで聞いた側も黙ってんだよ」

テツラ「これはカラオケに行った方が良さそうですねー」

ヴェント「曲も簡単なやつのがいいかもしれないわね」

テツラ「前途多難のようですねー（汗）」

アンジェレネ「俺らこんな右席いやだー　俺らこんな右席いやだー　♪」

議題その9 神の右席は和食が好き？

テツラ「さて 第9回神の右席定例会議ははじめますよー 今回の議題はこちら！」

ローマ正教の新メニュー考案

ヴェント「なんか生徒会とか学級会でやるような内容になつてんじゃない」

テツラ「といっても食は人間にとつて大切ですからねー 大切な信徒達のモチベーション向上を図るのも神の右席のお仕事ですよー」

アックア「だが、的は得ているのである」

フィアンマ「俺様達を作るわけでもねえんだからかまわんだろ」

ヴェント「わかったよ 分かりましたよ 考えりやいいんでしょう？」

テツラ「各自で考えてみてくださいねー」

数分経過

テツラ「できましたかー みなさん では順番に発表お願いしますねー」

アックア「私のはこれである」

ヴェント「ん？なんだこりゃ？」

アックア「この前学園都市に行った時に ふあみれす？とか言うところに行った時に

食べたのである 生姜焼きとトンカツ定食である」

ヴェント「待って待って待って なんで日本料理なんだよ ここ日本じゃないのよ? OK?」

アックア「OK(ズドン)」(撃つふり)

テツラ「理由をお聞かせ願えませんかー アックア」

アックア「体を作るにはまず肉が必要だと思うのである 食べて運動する これが一番である」

ファイアンマ「見てるだけで胸焼けがするぞ これ」

テツラ「あーちよつとランチとかで食べるのには重そうですねー まあ保留というところで次お願いしますねー」

ファイアンマ「よし 俺様の出番だな」

テツラ「えつとこれは冥土のオムライスに冥土の卵焼きですか?」

ヴェント「こえーよ 食ったら死にそうだな その料理 少なくともその冥土ではないと思うわよ」

ファイアンマ「そうだ よく分かったな ヴェント これは俺様が日本のメイド喫茶に行つた時に出された奴だ」

ヴェント「チツいやな予感が当たつちまつた なんでお前ら日本のもんばかりなん

だよ ここバチカンだからな？」

テツラ「じゃあヴェントの案はどのようなものですかー？」

ヴェント「あたしのはシンプルにこれだよ」

テツラ「ほう 弁当ですか 確かに量が決められるのは女性や子供にとっては好印象ですなー」

フィアンマ「ほつか亭やもつとホットとかで売ってそうなのやつだな あんだけ文句言つてた癖に俺様達と一緒にやねーか」

ヴェント「うるせえな お前らと違つてこの系列の店はこの近くにもあんだよ」

テツラ「あ ほんとですなー うちの領内にもあるみたいですねー」

フィアンマ「チツ」

アツクア「ヴェントの弁当であるか…(ぼそつ)」

ヴェント「おい、そこ聞こえてっからな 覚えとけよ そのレッドオン」

フィアンマ「俺様じゃねーぞ 言つたのはアツクアだ！」

ヴェント「知らんな で、テツラのはどうなのよ？」

テツラ「私のはこれですよー 牛丼 カツ丼 天丼 親子丼 うな丼 海鮮丼 麻婆
丼 卵丼 ウニ丼等の丼ものですねー」

ヴェント「テメエもかあ！テツラア！」

アツクア「でも悪くはないと思うのである」

テツラ「日本食でもいいじゃない 人間だもの」

ヴェント「みつをか！ テメエは！」

アニエーゼ「こうしてローマ正教の施設の一角に日本食の店ができたそーでござーますよ …………… どうしてこうなった」

議題その10 右席 v s 18 禁お姉さん

テツラ「はい、今日も第10回定例会議はじめますよー」

ヴェント「おい、テキトーすぎんだろ 進行」

テツラ「いや、もう10回目ですし、身内しかいませんし、いいかな…と」

アツクア「もうそんなにたったのであるか」

テツラ「それでですねー 今か

???「はい、辛気臭話はそこまでよー ここからの進行はお姉さんがやつちやうぞー」

ヴェント「お、お前は!」

フィアンマ「蜘蛛ねーちゃん!」

???「シャー そうよ私は蜘蛛に変身する美人のお姉さんツシャ って違うわよ!」

テツラ「違いますよ フィアンマ ピンクの狸でしょう? 某わがまま妖精アニメの」

???「はい、ミ○モだよー 今日もいい商品がー 違うっていつてるでしょ!」

アツクア「……真祖よ リメイクはまだであるか?」

???「うーん、それは私じゃなくてきのこに言ってくれないと……」

ヴェント「すまねえな コイツらこんなんで代わりに私が謝つとくわ」

??? 「ヴェントちゃん!!」

ヴェント 「ちゃん付けやめい　ところでチーズって雑種なの？」

??? 「アンタもかあ!　しかもそれはリドヴィアに聞いてちょうだい!　ていうかいい加減名乗らせなさいよ!」

テツラ 「しよーがないですなー　自己紹介どうぞー」

お姉さん? 「はい、みんなのお姉さん　オリアナトムソンよ　よろしくね」

ヴェント 「で、あんたはなんでこんなところにいるのよ」

オリアナ 「それはねーこの会議に足りない成分を補うためよ!」

アックア 「ほう、してそれは?」

オリアナ 「それはこれよ!」

議題　猥談をしよう!

ヴェント 「議題ですらねえ!」

フィアンマ 「何故俺様が稲○淳二のまねごとしなきやいかんのだ」

オリアナ 「それは怪談　お姉さんが言ってるのは猥談よ　わ・い・だ・ん」

テツラ 「しかし、私達　おじさんではそんな話ないんですがねー」

オリアナ 「そんなだからだめなのよ　ラスボストークの時にエツチな話題振られた時に固まったりしちゃ困るでしょう?」

ヴェント「いや、私らもうそんなウブな歳じゃないから普通に流すと思うわよ」

アックア「神の右席にはそんなのいな…」

フィアンマ「よし、その話題のつた」

ヴェント「お前 耐性ねえのかよ！」

テツラ「しかし、何を話せばいいんですか？」

オリアナ「まあとりあえずエツチな事に関する話題からかしらねー」

アックア「ならば私から行こう ヴェリアンから聞いたのであるが…」

ヴェント「…あの姫さんか… いやな予感が」

アックア「ウサギは一年中発情期らしいのである（ドヤ）」

オリアナ「それだけ？」

アックア「それだけである（キリッ）」

ヴェント「話そこで終わりじゃねえか！」

テツラ「発情期から話を繋げればいいですかねー ならば霊長類や牛には発情期が無

くてですねー」

フィアンマ「確か猫とかだと発情期の時の鳴き声とかで問題になつたりするから気を

つけなきゃいけないらしいな」

オリアナ「ちよつと待って こんなのお姉さんの知ってる猥談じゃない！」

ヴェント「こいつらにそんな高度なこと求めても、無理だ 諦めた方がいいわよ」
オリアナ「絶対こんなのちがーう！」

リドヴィア「オリアナのいつもの余裕がないわね あ、後チーズに関しては知りませ
んので(呆)」

議題その11 桃太郎が知りたい右席

テツラ「第11回神の右席会議をはじめますねー 今回はちよつと問題が持ち上がりましてねー」

ヴェント「問題って何だよ」

テツラ「えつとですわねー 少し言いづらいんですがねー」

フィアンマ「何かあったのか、テツラ？」

テツラ「恥ずかしながらですわねー 我が神の右席のメンバーでですわねー 演劇をしなければならなくなりましたわねー」

アツクア「我々で であるか」

テツラ「そうなんですよー 演目も決まってるらしいんですがねー」

ヴェント「何なのよ、演目は」

テツラ「えつとですわねー、桃太郎らしいですわねー どうやら日本の昔話らしいんですが ローマ教徒である私達にはピンとこなくて」

アツクア「あー確かにそうであるな 私もあんまり分からないのである」

フィアンマ「しかし、どうするんだ ただでさえ演技経験ないのに内容すら分からん

のは困るぞ」

テツラ「とうわけですわねー この話を知ってる方に来てもらいましたよー」

オルソラ「オルソラ・アクイナスです 今日にはよろしくお願いするのでございますよ」

ヴェント「おい、ちよつと待てここは日本人連れてくるだろ こいつ明らかに日本人じゃねえだろ」

テツラ「その点については大丈夫ですよー 彼女は学園都市に行った時にこの話を現地の人に聞いたらしいので」

オルソラ「私に任せて欲しいのでございますよ」

ヴェント「嫌な予感しかしませんですけど」

オルソラ「それではあらずじからご説明するのでございますよ、かつて精鋭部隊・コマンドーの隊長として名を馳せたジョン・メイトリックスは、現在は軍を退役し愛娘・ジェニーと山荘での静かな生活を送っていた。そんなある日、二人が暮らす山荘をメイトリックスのかつての上司・カービー将軍が訪れ」

ヴェント「オイ コラ そのシスター初っ端から別もんじゃねえかよ ただのコマンドーじゃねえか！」

ファイアンマ「何だ、お前も俺たち側の人間だったのか」

アックア「歓迎するのである同士よ」

ヴェント「勧誘やめろ 馬鹿ども おい、テツラどうするんだよ こいつ知らねえぞ
桃太郎」

テツラ「どうやら、そのようですねー 弱りましたねー」

オルソラ「はて、これではないのですか？ 私はこう教えてもらったのですが…」

ヴェント「誰に教えてもらったのよ？」

オルソラ「インデックスさんでございます」

ヴェント「あいつか…そりやダメじゃねえかよ」

テツラ「どうしたもんですかねー あ、これはイギリス清教の聖人に聞いた方が良さ
そうですねー」

ヴェント「ああ、あいつ確か日本人だったな 初めからそうするべきだったんじゃないの？」

アックア「ああ確かにあの女は日本人だったのである」

オルソラ「あれ？違ったのでございますか？あらあらこれはお恥ずかしい」

テツラ「これは次回に繰越ですかねー」

シエリー「大丈夫かよ こんなで間に合うのか…初めから神裂に聞けばよかつた
んじゃないの？」

議題その12 ルチア先生の桃太郎講座

テツラ「12回神の右席会議もとい桃太郎確認会ははじめますよー」

フィアンマ「やつと桃太郎の内容がわかるのか」

ヴェント「前はオルソラの野郎に聞こうとしてあやうくコマンドーになりかけたからな」

アツクア「ということはあの天草清教の聖人を呼んだのであるか？」

テツラ「いえ、大人の都合で別の方をお呼びしました」

ヴェント「あの聖人なんでこないのよ」

テツラ「聞いた話によると自分の配下の再教育と言っていましたねー」

ヴェント「何やってんだあの聖人（呆）で、誰呼んだのよ」

テツラ「それではどうぞー シスタールチア先生です」

ルチア「ルチアです 神の右席から直々に呼ばれてきましたか…」

フィアンマ「誰だこいつ？俺様知らんぞ」

ヴェント「お前 自分の教徒のことも把握してないのかよ これだからヒツキーは」

フィアンマ「うるさいぞ ストレツチマン 俺様は引きこもりじゃない 来るべきと

きに備えて(ゲームしたり 漫画読んだりして)るだけだ」

ヴェント「あ? テメエ遊んでるだけだろ バカなの 死ぬの?」

テツラ「まあまあ とりあえずシスタールチア これこれしかじかということがありまして シスタールチアは桃太郎を知ってるそうなのでお呼びしたわけなのですよー

桃太郎の内容の説明お願いしますねー」

ルチア「なるほど では説明します ざっくり言うと桃から生まれた桃太郎という少年が犬 猿 雉をお供に鬼退治する日本の昔話です」

アックア「少し待つのである、シスターの娘よ」

ルチア「どうしました? 何か気になる点が?」

アックア「この資料を見る限り 犬も猿も戦闘向けの種類ではない気がするのであるが」

テツラ「ではどうすればよかったですか? アックア」

アックア「うむ 犬はドーベルマンか 狼あたりを選び 猿はゴリラ、鳥はコンドルでも連れてくればマシにはなるのである」

ヴェント「おい、戦闘馬鹿 そんな現実的な話はやめなさいよ あくまで童話なのルチアが引いてんだろ」

テツラ「すいませんねー シスタールチア アックアのことは無視で構いませんの

で」

ルチア「え、アツハイでは続けます 話の流れはさっきの通りですね 劇でやるとなればオーソドックスな部類ではあるのでやりやすいとは思いますがよ 絵本等でも売られてるので参考にすれば良いかと」

ヴェント「へえーアタ詳しいのね」

ルチア「前にシスター達への朗読会がありましたその時に目にしまして」

テツラ「役はどのくらいあるんですか？」

ルチア「桃太郎 おじいさん おばあさん 犬 猿 雉 鬼 こんなもんですかね」

ヴェント「私ら4人しかいないから足りないんじゃない？」

テツラ「足りない配役はなんとか融通しますので大丈夫ですよー」

フィアンマ「てことは次に配役決めだな」

テツラ「それでは残りはまた次回 てことで来週もお願いしますね シスタールチア」

ルチア「え、次回も呼ばれるのですか？私」

神裂「んん？なんか嫌な予感がします まあいいです そんなことより 建宮齋字！ 待ちなさい！ コラア！ そのメイドセットをこちらに寄越しなさい！」

議題その13 第三王女の恐怖の役決め

テツラ「さて、第13回会議もとい配役決めを始めますよー」

ヴェント「シスタールチア、どんな配役があるんだっけ？」

ルチア「前回も申し上げましたが、桃太郎、おじいさん、おばあさん、犬、猿、雉、鬼ですわね」

ヴェント「桃太郎以外 人外ばっかだな」

アックア「そんなこと言ったら我々も大概人外なのである」

フィアンマ「なんだと！俺様はどこからどう見ても普通の人間だぞ お前らと一緒にすんな」

テツラ「第三の手がある時点で無理があると思いますがねー」

フィアンマ「なん…だと…」

ヴェント「この馬鹿野郎はほっといて進めてくれ シスタールチア」

ルチア「では、桃太郎から決めていき…(ドスツ)ん？これは？」

フィアンマ「これは日本に伝わる矢文というやつだな ほれ、ここに括り付けてあるのが手紙だ」

ヴェント「相変わらず日本に詳しいわね　ファイアンマ　で、その矢文にはなんて書いてあるのよ？」

ルチア「えつとですね　なっ（真つ青）」

テツラ「どうしました？　シスタールチア、顔が青いですよー」

ルチア「えつと、桃太郎役はアックア様に決定です…」

ヴェント「どういうこつた？　貸してみな　えつと　神の右席の皆様、ご機嫌いかがですか？（中略）桃太郎の演劇をやることを聞いたのですが、ウイリアムを主人公にするべきだと思いますわ（異論は認めません　もし、しなかったらわかっていますよね？）

b y ヴィリアン　…だとよ　アックア」

アックア「なん…だと…」

テツラ「…:では、それ以外の役を決めていきますかねー　どうしましょうか？」

ファイアンマ「俺様は犬あたりにしとくかな？」

ヴェント「じゃあ、私は雉かしらね」

ファイアンマ「あん？　お前はババア役じゃねえのか？　女だし、」

ヴェント「よし、殺すわ、塵も残さずにね」

テツラ「すると私はおじいさん役ですかねー」

ファイアンマ「いや、お前は猿だろ？　異教のクソ猿があ！　って叫んでたしな」

ルチア「それ、関連性ほぼないですよね？フィアンマ様」

テツラ「んー、猿の役となると猿の惑星でも見直しましょうかねー」

ルチア「以外と乗り気だ！」

ヴェント「そうなると じいさん、ばあさん と鬼が残るわね 残りどうすんのよ」

テツラ「おじいさん、おばあさんはビショップ ビアージオとシスターリドヴィアに

任せましょうかねー 後は鬼役ですが…」

アツクア「我々が戦う相手であるな」

ヴェント「あ、復活したわね」

アツクア「姫の前で恥を晒すわけにはいかんのでな…」

フィアンマ「大変だな お前（ドスツ） またかよ」

ルチア「ええと、読み上げます それと、鬼役はこちらから用意しますので当日はよ

ろしくお願いしますね かつこいいウィリアムを期待してますね？ だそうです」

ヴェント「…大変そうね アツクア」

アツクア「(白目)」

テツラ「次回は本番なのでそれまでに練習をしといてくださいねー はい、解散」

アツクア「いつもより疲れたのである…」

フィアンマ「アツクア…今日は飲みに行くか…」

ヴェリアン 「ああウィリアムの演劇楽しみです 早くみたいです♡」

番外編 フィアンマの声が決まった日

番外

フィアンマ「喜べ 全国のフィアンマファンの諸君！今日のエンディミオンの特番で遂に俺様にも声がついたぞッ！」

ヴェント「うるさいわよ フィアンマ そんな大声あげて」

テツラ「我々も少し前（第3話と4話参照）に話しましたが、どうやらフィアンマにも声がついたようですねー」

アツクア「うれしそうですね フィアンマ」

フィアンマ「お前らのキャストにも見劣りしない豪華なキャスティング感謝するぞッ！」

アツクア「ふむ、フォレストリバーさんか、豪華であるな」

ヴェント「どうすんだよ 今日のあいっテンション高えぞ」

テツラ「まー今日ばかりは好きにさせてあげましょうよ 苦節8年の末貰えたようですし」

フィアンマ「出番が遅かったこともあつてか2期の時は名前だけだったからな これ

で1人だけ声無しと言われなくて済むな」

ヴェント「他には誰が発表されたのかしらね（テレビで確認）」

テツラ「おやおや イギリス組が発表されたようですねー よかったですねー アツクア」

ヴェント「お前の知り合いばかりだもんな 第3王女さんも発表されてるじゃねえか なあウイリアムオルエルさん」

アツクア「……………チツ まあそうであるな だが、私には関係ないことである」

フィアンマ「俺様のついでで発表されたのか よい、許す 今夜は俺様は機嫌がいい」
ヴェント「オイオイ、お前いつからどこぞの金ピカの王様になったのよ」

テツラ「浮かれてますねー こんなフィアンマを見るのは久しぶりですよ」

ヴェント「そのぶんウザさマックスだけどね この感じイギリス編キツチリやるみたいね ロシア編もやるのかしら」

フィアンマ「当たり前だろう 旧約のラスボスである 俺様の出番だぞ たつぷり丁寧にやるに決まってるだろう 劇場版でもいいぞ？」

アツクア「む、何か嫌な予感があるのである テツラ、私は一時退出するので何かあったら呼んでくれ」

テツラ「それは構いませんがどうしたんですか？」

フィアンマ「ん？何やら外が騒がしいな 俺様を祝いに誰がきたのか」
ガラッ

ヴイリアン「ウ・イ・リ・ア・ム！」

アツクア「何？どうしてあなたがここに」

ヴイリアン「きちやいました♡」

騎士団長「すまん 止められなかった…」

ヴイリアン「さあ今日は2人でお祝いしましょう もちろんしてくれませよね？」

アツクア「むうつつ」（連れていかれた）

テツラ「大変そうですねー ま、我らがリーダーにも声がついて何よりです」

フィアンマ「よし、今日はフィアンマ記念日と名付けよう

9月30日は俺様の日だ！」

テツラ「奇遇ですねー ヴェントの学園都市襲撃日と被ってますが いいんですか？」

ヴェント「あいつ聞いてないし いいでしょ別に それともう一人いる こいつは誰なのかしら？」

テツラ「さあ？」

垣根「ん？誰かが噂してんのか？
まあいいか」